



Newsletter

No. 18 June 30 2015

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

Viva! Chile!

日本は過ぎ易い春を経て徐々に蒸し暑くなっていく季節かと存じますが、地球の裏側に位置するチリは現在、秋になり、夏には青々していた木々も紅葉し、朝晩は非常に冷え込む季節となりました。

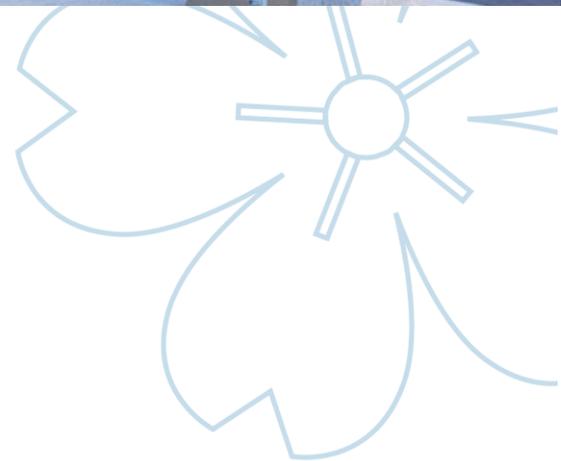
そんな寒さを吹き飛ばすべく、本年6月11日より4年に一度の南米サッカーNo.1を決めるコパ・アメリカが開幕しました。コパ・アメリカは1916年より始まった世界最古のナショナルチームによる大陸選手権大会で今回が44回目であります。過去6回チリで開催されているものの未だに優勝経験がなく(優勝経験がないのは、野球の国ベネズエラ、エクアドル、そしてチリの3か国のみです)、今回の自国開催にける思いが国中から伝わってきております。

実際、人々の話題もメディアもコパ・アメリカ一色で、至る所でチリのユニフォームや応援グッズが売られております。

開幕戦当日には、保育園(現地の保育園)から帰宅してきた息子・娘の顔にチリ国旗がペインティングされ、息子が「Chi-Chi-Chi, Le-Le-Le, Chile! Chile! Viva! Chile!」と保育士さんに教えてもらったチリを応援する歌を歌っていたり、開幕戦をテレビで応援するために皆が早く帰宅することでの渋滞が街中に発生したりと、まさに国民的行事と実感する出来事が身近にたくさん起こっております。

開幕戦はエクアドルに勝利し、街中からは歓喜の雄叫びが聞こえてきました。7月4日(現地時間)の決勝戦までチリが勝ち進み、念願の初優勝でチリ国全土が歓喜の輪で包まれることを願いつつ、巻頭文を締めさせていただきます。

小田柿 智之 LACRC 消化器病態学分野



LACRC TMDU IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



コパアメリカのチリ代表選手

Contents

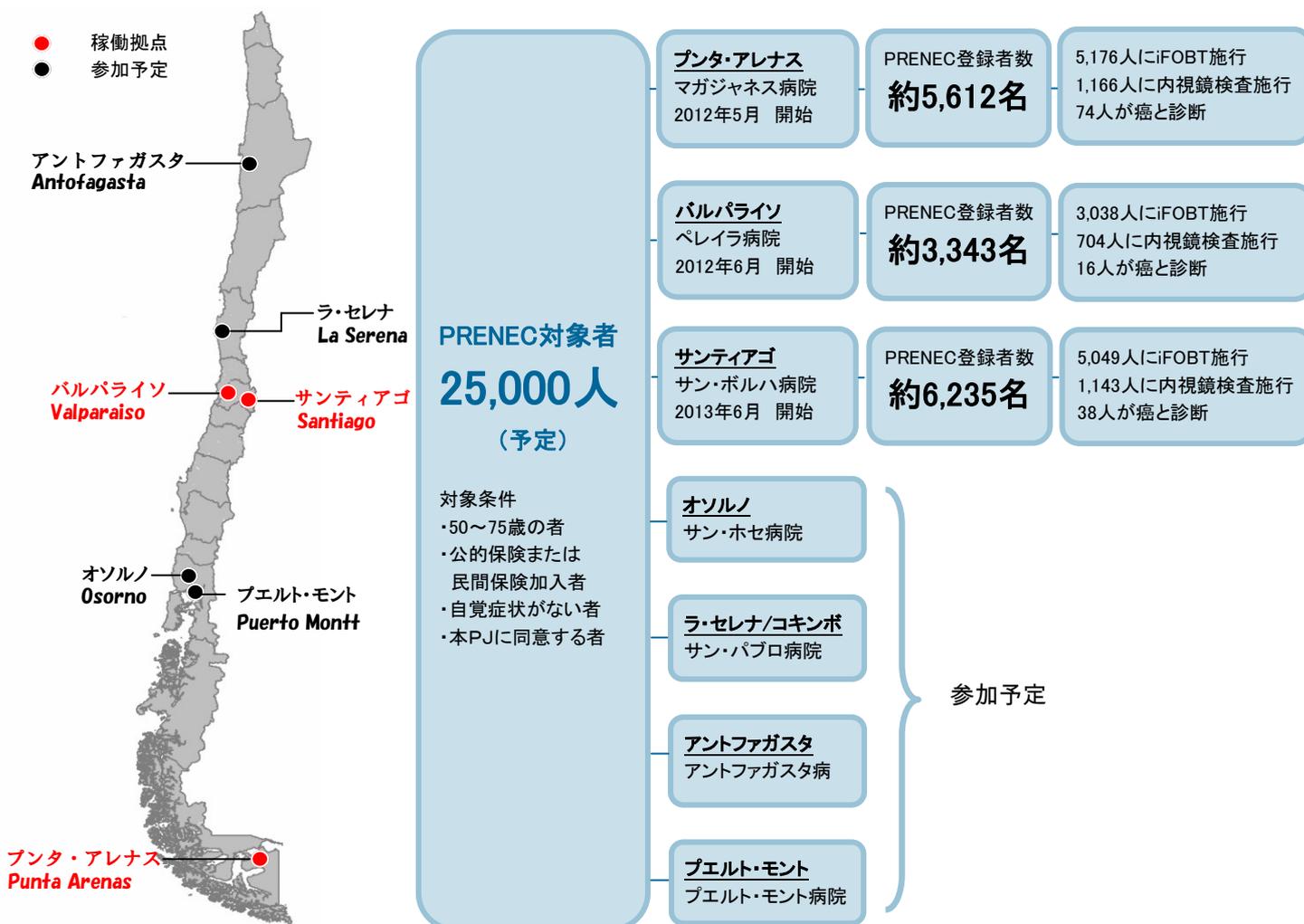
ご挨拶	1
PRENECの進捗状況	2
LACRC活動報告	5

PRENECの進捗状況

LACRCのメインミッションである大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の最新情報をご報告いたします。このプロジェクトでは、現在第5州バルパライソ、第12州プンタ・アレナス、首都州サンティアゴの3都市において免疫学的便潜血反応検査(iFOBT)を用いた検診プログラムが進行中です。

PRENECの進捗報告

2012年より開始されたPRENECは現在までに3拠点(プンタ・アレナス、バルパライソ、サンティアゴ)が稼働しており、2014年に新たな3拠点の参加が見込まれていましたが各当局の準備が追いつかず待機状態となっております。しかしながら、今年2015年6月プエルト・モンテ、来月7月にはバルディビアにて講習会が開催され新たな参加が期待されています。



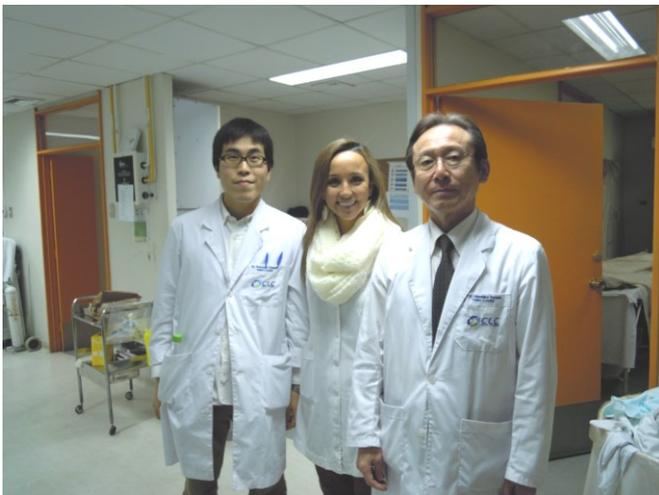
サン・ボルハ病院における内視鏡トレーニング

以前のニュースレターでもお伝えしているように、チリ国内では大腸内視鏡検査を施行できる医師が少なく、大腸癌検診を普及する上での課題の一つとなっております。この状況を改善すべく2013年10月よりサンティアゴ、サン・ボルハ病院にある日智消化器病研究所にて研修を受け入れ、大腸内視鏡の挿入・診断・治療の指導を行ってきました。

2015年6月現在、キハダ医師(2015年3~6月)、タピア医師(2015年6~8月)が研修を受講しており、LACRCの椿教授、小田柿助教により指導が行われております。

キハダ医師は内視鏡検査自体全くの初心者であったにもかかわらず、我々の指導に熱心に耳を傾け、研修に励んだこともあり、検査を完遂できるレベルにまで上達いたしました。研修終了後には、元々所属している病院に大腸内視鏡検査を導入することです。

我々の活動により、チリ人内視鏡医が育っていくことは非常に喜ばしいことで、今後もチリ国内での大腸癌検診の一翼を担える人材の育成を目標に指導を行っていく予定です。



キハダ医師と記念撮影



PRENEC専任ジャスミン看護師とタピア医師と記念撮影



サン・ボルハ病院外観



キハダ医師のトレーニングの様子

プエルト・モント市における講習会開催

チリ南部に位置するプエルト・モント市はロス・ラゴス州(第10州)の州都でありチリ南部の海運、漁業、材木産業の中心地域です。ドイツ人の移民も多く、町にはヨーロッパの雰囲気が漂っています。

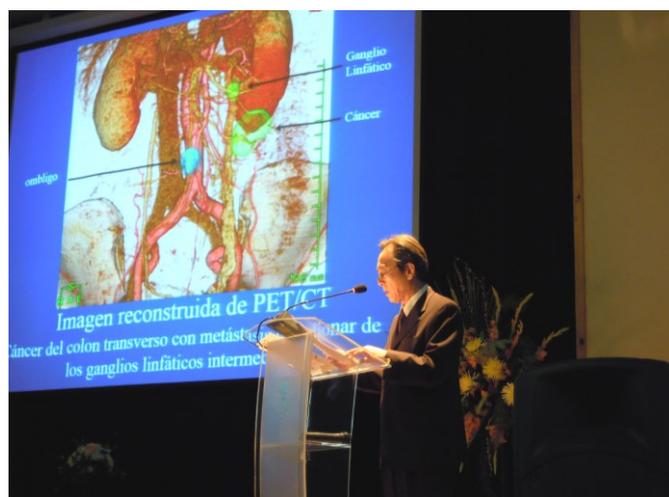
本年5月8日、9日の2日間にわたりプエルト・モント市内プエルト・モント病院、同市内サン・セバスティアン大学にてPRENEC参加に向けた講習会が行われました。講習会にはLACRCより椿教授、小田柿助教がCLCからはロペス医師、サラテ医師、ウリベ医師、レジェス医師、ペニャローサ医師、ポンセ看護師、タマラ栄養士が参加し、椿教授と小田柿助教はそれぞれ「日本における大腸癌の標準外科的治療」、「日本における大腸ESD治療」に関する講演を行いました。

また通例のように巨大な大腸模型をモール内に展示して一般市民を対象に早期発見・早期治療の大切さを呼びかけました。



プエルト・モント病院

講習会ポスター



椿教授講演発表の様子



小田柿助教講演発表

LACRC活動報告

客員教授任命証授与

本年5月、6月に、チリ大学よりククルジャン医学部長、同大学医学部オンライン研究技術科長、CLCよりゴイコレア理事代表、ロペス大腸肛門科長の4名の先生方を本学客員教授としてお迎えすることとなりました。

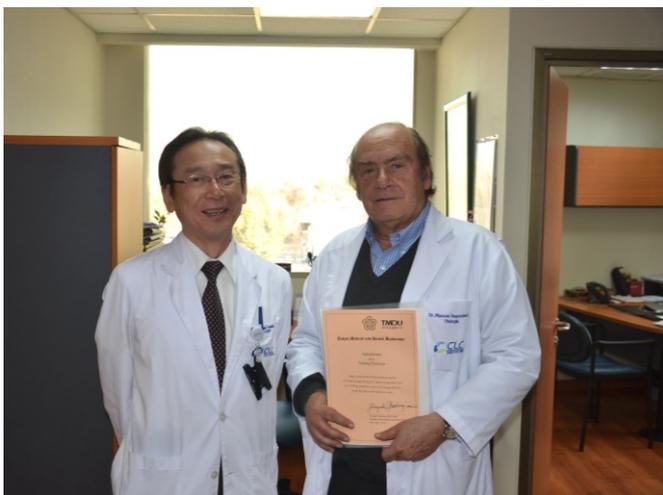
LACRC拠点責任者の樁教授より各先生方に任命証の授与が行われ、名誉な事と喜びのコメントをいただきました。今後もJDP(ジョイントディグリープログラム)開始に向けて順調にプロセスが進むことが期待されます。



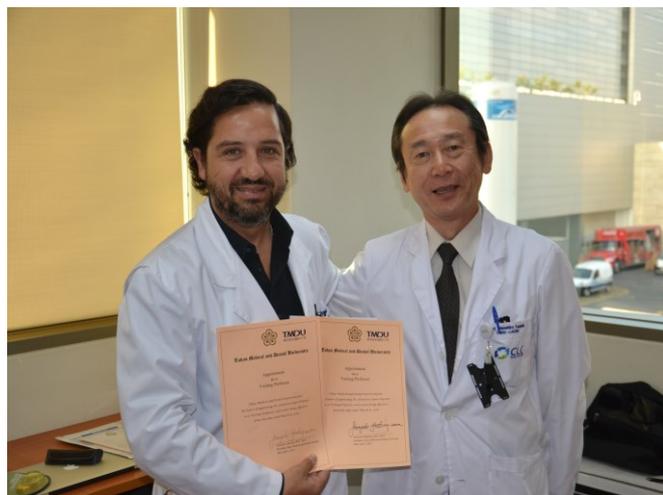
ククルジャン医学部長(チリ大学)



オンライン研究技術科長(チリ大学)



ゴイコレア理事代表(CLC)



ロペス大腸肛門科長(CLC)

在チリ日本大使館主催講演会開催

本年6月12日、チリ大学医学部において在チリ日本大使館主催の樫教授による日本とラテンアメリカの医学協力に関する講演会が開催されました。

当日は当地のデモの時期と重なり来場者の数が懸念されていたにもかかわらず、チリ政府関係者からチリ人医師、同大学医学部学生、サンティアゴ市内の大学生、現地在住邦人まで幅広い来場者が講演会に集まり、質疑応答の際には日本・チリ間の医療における共通点や違いなど活発な意見交換が行われました。

また講演後には同大学医学部オライオン研究科学技術長より本学とチリ大学のJDPの紹介もされ学生の関心を引くこととなりました。



講演会場のチリ大学医学部外観



左より樫教授、ソト衛生医学指揮海軍少尉、オライオン教授、ララニャガ医師



講演発表中の樫教授

編集後記

チリ首都圏では過去40年余りでこれほど降雨の少ない6月は珍しく、もともと盆地に位置している事も相俟って大気汚染による環境非常事態が16年ぶりに発令されました。これにより車両規制を受けLACRCスタッフの生活や業務に影響が出ることも少なくありません。日本では梅雨の頃かと思われませんが、大気の汚れを一掃すべくサンティアゴにも一日も早く雨が降るよう切望しております。今後も本Newsletterを通してLACRCの活動を報告して参ります。(早川美貴)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No. 18, June 2015

[発行日] 2015年6月30日
[制作] Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Tel: (56-2) 2610 3780
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp